

20～59歳の女性 1200名に聞いた 『2011年のゴールデンウィーク』 ～平均4.6連休、予算平均は38,528円～

この度の地震により被災された皆さま、そのご家族・ご関係者の方々に対しまして心よりお見舞い申し上げます。また、被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

第一生命保険株式会社（社長 渡邊 光一郎）のシンクタンク、株式会社第一生命経済研究所（社長 長谷川 公敏）では、全国に居住する20～59歳の女性1,200名を対象に標記についてのアンケート調査を実施いたしました。

この程、その調査結果がまとまりましたのでご報告いたします。

《調査結果のポイント》

2011年のゴールデンウィークでとれる連休(P. 2)

- 今年のゴールデンウィークにとれそうな連休は「3連休」が最多
- 平均で4.64日の連休の見込み

2011年のゴールデンウィークの予算(P. 3)

- 予算は全体で3万8,528円、50代では4万円超
- 世帯人数別にみると、「2人」世帯で最も予算が多い

ゴールデンウィークの予定の有無(P. 4)

- ゴールデンウィークの予定を「かなりたてている」人は2.2%
- 7割近くが「まったく予定をたてていない」

ゴールデンウィークの予定(想定を含む)(P. 5)

- 「家でのおんびりする」が6割近くを占めて最多
- 「買い物」「実家に帰る」が続く

ゴールデンウィークについての意識(P. 6)

- ゴールデンウィークが「待ち遠しい」人は半数弱
- 「お金がかかる」「疲れる」という声も多い

過去5年間の経済的な生活変化(P. 7)

- 全体の6割近くが「苦しかった」と回答
- 特に40代で「苦しかった」との回答が多い

＜お問い合わせ先＞

(株)第一生命経済研究所 ライフデザイン研究本部
研究開発室 広報担当(安部・新井)

TEL. 03-5221-4771

FAX. 03-3212-4470

【アドレス】<http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/ldi>



《調査の実施概要、回答者の特性》

1. 調査地域と対象 全国に居住する 20 から 59 歳の女性 1,200 名
2. サンプル 第一生命経済研究所生活調査モニターより抽出
3. 調査方法 質問紙郵送調査法
4. 実施時期 2011 年 3 月 (11 日発送)
5. 有効回収数 (率) 1,141 名 (95.0%)
6. 回答者の属性

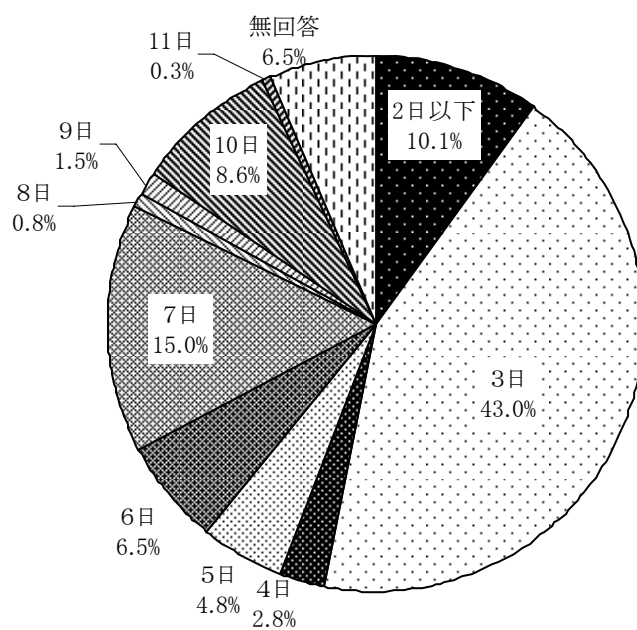
年代	人	パーセント
20 代	112	9.8
30 代	335	29.4
40 代	348	30.5
50 代	346	30.3
合計	1,141	100.0

今回のアンケートは「東日本大震災」当日（3月11日）に発送されており、モニターからの回答はすべて震災後にいただいております。

2011年のゴールデンウィークでとれる連休と予算

今年のゴールデンウィークにとれそうな連休は「3連休」が最多 平均で4.64日の連休の見込み

図表1 今年のゴールデンウィークで最長何連休とれそうかの見込み
(全体分布、全体・年代別平均値)



年齢	平均値
全体	4.64日
20代	4.40日
30代	4.50日
40代	4.63日
50代	4.88日

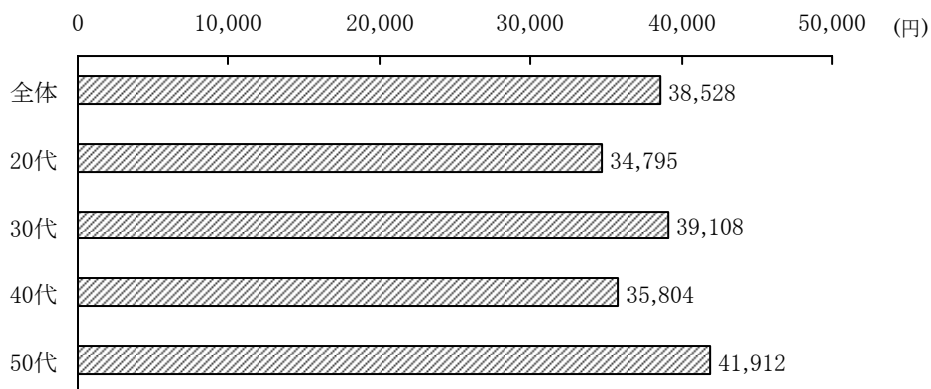
「あなたのお宅では、今年のゴールデンウィークには、最も長くて何連休くらいとれそうですか」とたずねたところ、最も多かったのは「3日」で43.0%を占めました。これに「7日」が15.0%が続いています。

平均値をとると、4.64日との回答を得ました。年代が高いほど平均日数が多く、20代で4.40日、30代で4.50日、40代で4.63日、50代で4.88日となっています。

2011年のゴールデンウィークの予算

予算は全体で3万8,528円、50代では4万円超
世帯人数別にみると、「2人」世帯で最も予算が多い

図表2 今年のゴールデンウィークの予算(全体、年代別、世帯人数別平均値)



世帯人数	n	平均値
全体	1128	¥38,528
1人	31	¥34,387
2人	190	¥43,095
3人	334	¥37,237
4人	387	¥38,540
5人	126	¥37,817
6人	37	¥37,108
7人	19	¥33,211
8人	4	¥21,250

「あなたのお宅でゴールデンウィークに使ってもよいと思われるご予算をお答えください」との問に対しては、平均で3万8,528円との回答を得ました。

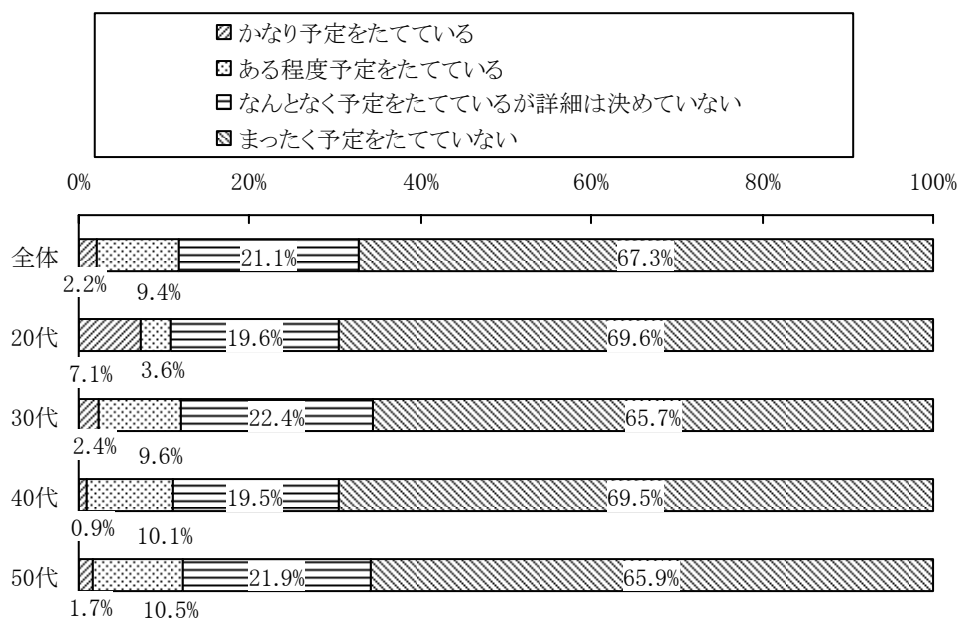
年代別にみると、50代では最も平均値が高く、4万円を超えています。

世帯人数別にみると、「2人」世帯で最も平均値が高く、4万3,095円となっていました。2人世帯のほうが3人・4人世帯よりも予算が多いという点が興味深いところです。ちなみに、2人世帯が最も多いのは50代(30.1%)で、これに20代(14.3%)が続いています(図表省略)。

ゴールデンウィークの予定の有無

ゴールデンウィークの予定を「かなりたてている」人は 2.2%
7割近くが「まったく予定をたてていない」

図表3 ゴールデンウィークの予定の有無(全体、年代別)



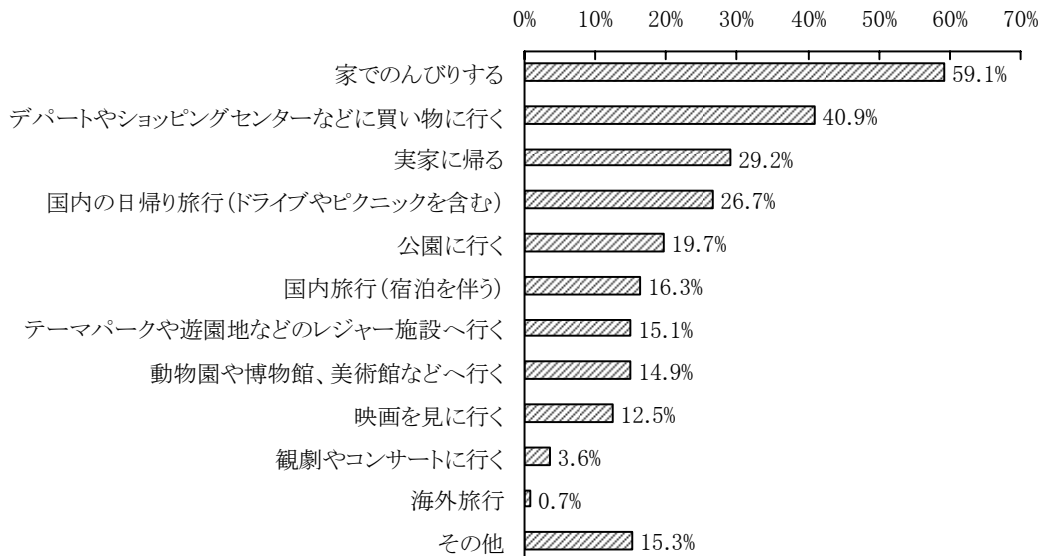
ゴールデンウィークの予定の有無についてみると、「かなり予定をたてている」とする人は 2.2%となっており、67.3%が「まったく予定をたてていない」と回答しています。年代別にみると、20代では「かなり予定をたてている」とする人が若干多く、7.1%となりました。しかしその一方で「まったく予定を立てていない」とする人も 69.6%と最多となっています。

調査の実施は3月半ばですが、ゴールデンウィークを1ヶ月半後に控えた時期でも、ゴールデンウィークの予定は一部の人でしか具体的にたてられていないのが現状のようです。

ゴールデンウィークの予定(想定を含む)

「家でのんびりする」が6割近くを占めて最多
「買い物」「実家に帰る」が続く

図表4 ゴールデンウィークの予定(全体、年代別) <複数回答>



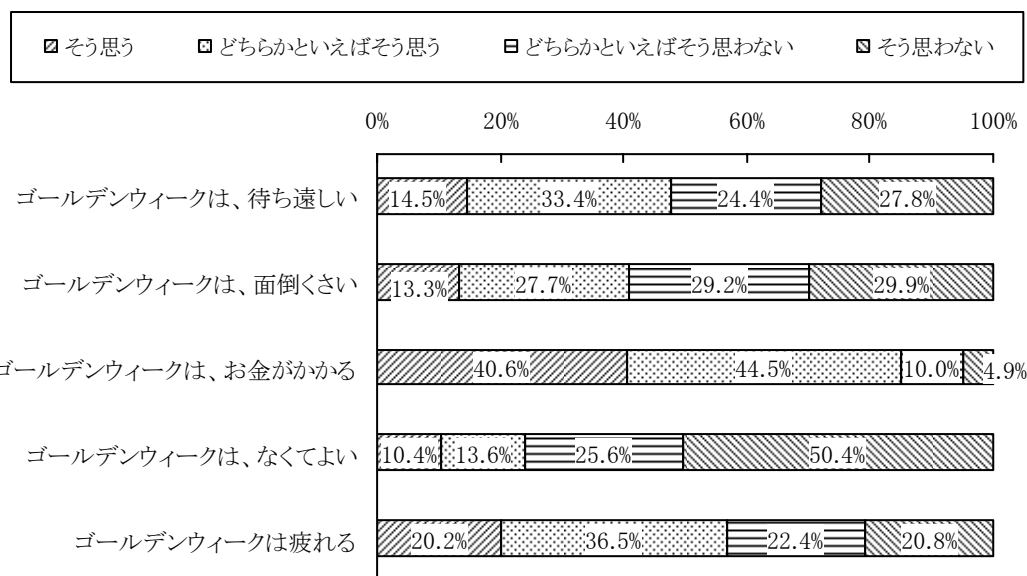
	20代	30代	40代	50代
家でのんびりする	57.1%	50.7%	59.2%	67.9%
デパートやショッピングセンターなどに買い物に行く	37.5%	39.1%	41.7%	42.9%
実家に帰る	31.3%	38.8%	27.9%	20.3%
国内の日帰り旅行(ドライブやピクニックを含む)	21.4%	27.5%	27.6%	26.8%
公園に行く	25.0%	35.2%	16.1%	6.5%
国内旅行(宿泊を伴う)	25.9%	17.6%	13.5%	14.7%
テーマパークや遊園地などのレジャー施設へ行く	22.3%	26.9%	12.1%	4.1%
動物園や博物館、美術館などへ行く	17.0%	25.1%	9.8%	9.4%
映画を見に行く	9.8%	7.5%	14.1%	16.8%
観劇やコンサートに行く	2.7%	3.6%	2.6%	5.0%
海外旅行	0.9%	0.3%	0.3%	1.5%
その他	14.3%	14.9%	16.4%	15.0%

「今年のゴールデンウィークの予定として、具体的にはどのような予定を考えていますか。まったく予定をたてていない方は、想定されるものについてお選びください」として、予定をたずねました。その結果、最も多かったのは「家でのんびりする」(59.1%)となりました。以下、「デパートやショッピングセンターなどに買い物に行く」(40.9%)、「実家に帰る」(29.2%)、「国内の日帰り旅行(ドライブやピクニックを含む)」(26.7%)と続いています。「海外旅行」(0.7%)や「観劇やコンサートに行く」(3.6%)については回答が下位となっていました。

ゴールデンウィークについての意識

ゴールデンウィークが「待ち遠しい」人は半数弱 「お金がかかる」「疲れる」という声も多い

図表5 ゴールデンウィークについての意識(全体、年代別)



	20代	30代	40代	50代
ゴールデンウィークは、待ち遠しい	61.6%	51.6%	46.4%	41.0%
ゴールデンウィークは、面倒くさい	23.4%	39.9%	43.9%	44.6%
ゴールデンウィークは、お金がかかる	73.2%	90.1%	88.2%	81.0%
ゴールデンウィークは、なくてよい	16.2%	22.2%	24.9%	27.3%
ゴールデンウィークは疲れる	37.8%	55.4%	58.5%	62.3%

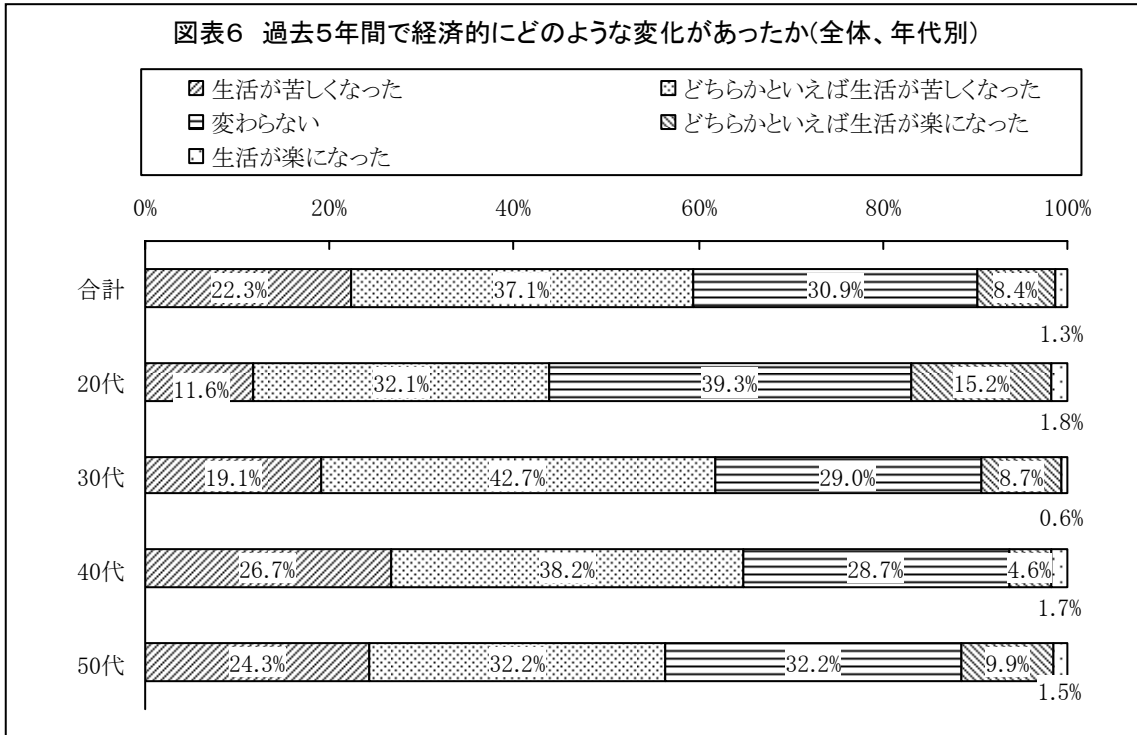
ゴールデンウィークについての意識についてたずねました。

「ゴールデンウィークは待ち遠しい」と回答した人は47.9%（それぞれ「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）となっており、半数を割っています。「ゴールデンウィークは面倒くさい」とした人は41.0%でした。「ゴールデンウィークはお金がかかる」とした人は85.1%にのぼっており、休日が多いことによる出費増をうかがわせます。「ゴールデンウィークは、なくてよい」と考えている人は24.0%と、4人に1人程度がゴールデンウィークを不要と考えていることがわかりました。「ゴールデンウィークは疲れる」とした人は56.7%となっています。こうした意識が、「家でのんびりする」というニーズを生み出すのかもしれない。

年代別にみると、若い年代ほど「待ち遠しい」という回答が多く、「面倒くさい」「なくてよい」「疲れる」といった意見は年代が高いほど多い傾向があります。

過去5年間の経済的な生活変化

全体の6割近くが「苦しくなった」と回答
特に40代で「苦しくなった」との回答が多い



「過去5年間で、あなたの生活は経済的にどのように変わったとお考えですか」とたずねました。その結果、「生活が苦しくなった」とする人が22.3%、「どちらかといえば生活が苦しくなった」とする人が37.1%となり、全体で59.4%が「苦しくなった」と考えていることがわかりました。「変わらない」とする人は30.9%となっています。

年代別にみると、「苦しくなった」（「生活が苦しくなった」と「どちらかといえば生活が苦しくなった」の合計、以下同じ）とする人の割合は20代で43.7%、30代で61.8%、40代で64.9%、50代で56.5%となっており、30代・40代で6割を超えていることがわかりました。20代と50代では「変わらない」とする人が30%を超えており、特に20代では39.3%となっていました。

《研究員のコメント》

ゴールデンウィークは、年末年始、夏季休暇、新年度に次いで出費の多い季節です。特に今年は震災の影響もあり、自粛ムードや節約志向が予想されることに加え、費用を義援金に回す、余震の影響で旅行やレジャーで移動するのに抵抗があるといった声も聞かれます。レジャー施設なども、大震災や節電等の影響で通常営業しているかどうかが不明ということもあり、なかなかプランのたてにくいゴールデンウィークとなりそうです。

その一方で、一刻も早く日本経済や日常生活を軌道に乗せ、大震災前の生活に近づけるためにも、偏った経済活動をせずに、できる人はできる範囲で普段どおりの生活を送るべきという声も聞かれます。観光業界やレジャー産業の低迷が、負の派生効果を生じさせ、別のところにひずみをもたらす可能性も否定できません。

また、ゴールデンウィークの過ごし方についての設問において、「その他」の回答として、被災地に手伝いに行くという意見が見られたのも、今年の調査ならではの傾向です。普段はできないけれど、ゴールデンウィークだからこそできることもあるでしょう。

本調査は、大震災直後に行ったため、現在はさらに意識が変化しているとも思われますが、それでも今年のゴールデンウィークは例年に比べて予定がたてにくい年となっていると推察されます。

家でのんびりして疲れを癒すもよし、家族サービスをするもよし、積極的な消費で経済を刺激するのもよし、日頃できないことをまとめて片付けるもよし……。いずれにせよ、皆が少しでも笑顔で過ごす機会を増やせるよう、例年以上に一人ひとりが工夫と試行錯誤を求められるゴールデンウィークになりそうです。

(研究開発室 副主任研究員 宮木由貴子)